

明治時代～

古都の風情と詩的な文化が漂う市民のまちへ

1868(明治元)年、明治政府の誕生によって、欧米からさまざまな文化が急激に取り入れられました。東京医学校に招かれたドイツ人医師・ベルツ博士が、医療としての海水浴に適した地として鎌倉を紹介。これがきっかけとなり、時の衛生局長・長與専齋の尽力によって、1887(明治20)年には日本初のサナトリウム「海濱院」が開設されます。その同年に東海道線、翌々年に横須賀線が開通。古都の風情と、別荘地や保養地としての素質に、交通の便が加わった鎌倉を求めて移住する人々が急増しました。温暖な気候と執筆活動にふさわしい環境を求めて東京から、名だたる文人たちも鎌倉へと移住。彼らはやがて鎌倉文士と呼ばれるようになり、鎌倉の文化的なムードをより濃くしていきました。また、戦後の高度経済成長期に起こった市民運動「御谷騒動」に象徴される文化と自然を守ろうとする市民意識は、鎌倉らしさとして今も受け継がれています。

1869(明治2)年

かまくらぐう
鎌倉宮

秋の風物詩「鎌倉薪能」の舞台

明治天皇の勅命によって創建され、祭神は南北朝期に非業の死を遂げた護良親王。1959(昭和34)年から毎秋行われている「鎌倉薪能」は、夜の境内で篝火のもと行われる季節の風物詩。『鎌倉夫人』『冬のかたみに』などで知られる作家の立原正秋は、これを題材に『薪能』を著すなど、文士の創作の舞台となりました。



こんばせうけ
金春宗家をはじめ一流の演者たちが能や狂言を演じる



鎌倉を深掘り

貸本屋から大学まで。文化復興を担った鎌倉文士たち

1889(明治22)年の横須賀線開通により、古都鎌倉は保養地として人気を博し、多くの文学者が訪れました。関東大震災以降から昭和にかけては、東京から一部の文学者が移住。彼らはやがて「鎌倉文士」と呼ばれるようになり、文芸・文化の発展の一翼を担いました。

戦中の1945(昭和20)年には、久米正雄、川端康成、高見順らが中心となり、切迫する暮らしを打開すべく、自らの蔵書を集めた貸本屋「鎌倉文庫」を開店。空襲警報の合間を縫って客が殺到するほどの人気で、戦後には出版社「鎌倉文庫」を立ち上げました。さらに戦後には、文人・学者らも講師を務める「鎌倉大学校」(のちに「鎌倉アカデミア」)を光明寺を仮校舎として開校。



店前に掲げられた鎌倉文庫の看板。作家・埴見弾が書いたもの
鎌倉文学館蔵

自由な人間づくりを目指した学校には、4年間で多くの若者が学びました。

暗い時代のなか、鎌倉を愛し、描き、文学都市へと高めた鎌倉文士たち。その自由闊達な精神は、かつての鎌倉武士の「独立自尊」の矜持そのものといえます。その精神は現代へ引き継がれ、新世代の文学者たちが活躍しています。



漫画家・清水崑が当時の店の様子を描いた『かし本や鎌倉文庫繁盛図』 鎌倉文学館蔵

1908(明治41)年

はせこどもかいかん もと
長谷子ども会館(旧諸戸邸)

住宅街にある明治期の小さな洋館

株式仲買人の福島浪蔵の別邸として建てられ、後に実業家の諸戸清六が所有。1980(昭和55)年に鎌倉市が取得しました。ギリシャ建築を取り入れた華麗なバルコニーなど、内観・外観ともに繊細な意匠が目を引きまします。入館はできませんが、外観を見ることができます。



正面バルコニーの柱、玄関、窓枠、ドア枠にも華麗な装飾が

1916(大正5)年

こがてい
古我邸

かつては著名人や政治家も住んだ豪邸

鎌倉文学館、旧華頂宮邸と並ぶ鎌倉三大洋館のひとつ。三菱合資会社の専務理事だった荘清次郎の別荘として約15年を費やして建てられ、関東大震災直後の対策会議はここで開かれました。1937(昭和12)年には日本土地建物の経営者・古我真周が取得。元首相の濱口雄幸や近衛文麿も別荘として利用し、現在はレストランとして活用されています。



設計は旧三菱銀行本店などを手がけた建築家の桜井小太郎

1926(大正15)年

いしかわてい さとみとん
石川邸(旧里見淳邸)

作家・里見淳の理想が詰まった邸宅

作家・里見淳が自ら設計に関わった邸宅で、洋館部分は建築家のフランク・ロイド・ライトの造形を取り入れたもの。渡り廊下で繋がった別棟は茅葺きの日本建築で、茶室として使われていました。1936(昭和11)年に里見氏が転居した後は、所有者は数度変わり、一時期ホテルとしても用いられ、その後石川氏の住宅となりました。



ポーチが印象的な洋館。
奥の日本家屋とのコントラストも魅力

鎌倉を深掘り

日本初のサナトリウムから始まった海水浴

ドイツ人医師・ベルツ博士と当時の内務省衛生局長・長與専齋は、鎌倉を避暑・避寒・保養の適地とし、医療としての海水浴＝潮湯治を推奨しました。鎌倉が海浜保養地として知られる先駆けとなったのは、1887(明治20)年に由比ガ浜につくられた日本初のサナトリウム(療養所)・「海濱院」。潮湯治は決まった時間に海に入ることを繰り返すものですが、1885(明治18)年に、長谷にあった三橋旅館が『東京横浜毎日新聞』に「海水浴御馳走」という広告を掲載し、さらに1888(明治21)年には「海濱院」が海水浴客や外国人客を受け入れる「海濱ホテル」へ衣替えしたことから、瞬く間に海水浴はレジャーとして定着しました。



療養所から衣替えした当時の「海濱ホテル」

1927(昭和2)年

みかわやほんてん
三河屋本店

戦前の風情が残る老舗酒店

1900(明治33)年に創業した老舗酒店で、現在の建物は創業者の竹内福蔵が、関東大震災で倒壊した際に建て替えたもの。若宮大路の沿道でもひときわ目を引く重厚な商店建築は、軒が大きく前面に張り出した伝統的な出桁造りが特徴。店内では地酒や地ビールなどを販売しています。敷地の奥には蔵があるほか、店脇には酒を倉庫に運搬するためのトロッコとレールが残り、今も現役で活躍しています。



複雑に重なる屋根と長大な差し鴨居を備えた風格ある佇まい

鎌倉を深掘り

忘れがたい青春を過ごした芥川

東京帝国大学卒業後、作家になることを志し、横須賀の海軍機関学校で英語の教師をしていた芥川龍之介。1892(明治25)年～1927(昭和2)年。1916(大正5)年～1917(大正6)年には海濱ホテル近くの由比ガ浜に下宿し、1918(大正7)年から約1年間、元八幡近くの借家で新婚生活を送りました。俳人の高浜虚子ら鎌倉に住む文学者たちと親交を深めたこの時期は、『地獄変』『蜘蛛の糸』『奉教人の死』などを発表した充実期でもあり、当時の生活を綴った書簡も多く残っています。人気作家となった芥川は、その後東京・田端の家に戻りますが、次第に健康状態が悪化。自ら命を絶つ前年には、「鎌倉を引き上げたのは一生の誤りであった」と語ったといわれています。



新婚時代を過ごした鎌倉大町(現在の材木座)の書斎

1928(昭和3)年

きゅうかわきたていべつてい
旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)

海外との懸け橋となった映画人の別邸

戦前から戦後にかけて、『自由を我等に』『天井 棧敷の人々』『第三の男』ほか数多くのヨーロッパ映画の名作を輸入・配給し、戦後は、国際映画祭を通して日本映画を積極的に海外に紹介した「東和商事」(現在の東宝東和)の創設者・川喜多長政、かしこ夫妻の別邸です。山と黒い板塀に囲まれた棧瓦葺き屋根の和風建築は、1961(昭和36)年、東京にあった哲学者・和辻哲郎の住宅を移築したもので、もとは神奈川・大山の古民家だったそうです。国際人だった夫妻は、この別邸を海外から訪れる映画監督やスターを迎える場として活用しました。東側の母屋は整備され、現在は「鎌倉市川喜多映画記念館」となっています。



内部には土間や居間、書斎などがあり、春と秋に一般公開される



1929(昭和4)年

きゅうかちょうのみやてい
旧華頂宮邸

昭和初期の洋館とフランス式庭園を散策

緑深い衣張山東側にある、華頂博信侯爵邸として建てられた洋風住宅です。その後たびたび持ち主が変わり、1996(平成8)年に鎌倉市が取得しました。ヨーロッパの民家などに見られるハーフティンバー様式の建物で、柱・梁などが外部に現れる趣あふれる外観が特徴。樹木や池を幾何学的に配置した美しいフランス式庭園を併設し、季節の花を楽しみながら散策が楽しめます。また、敷地奥には1971(昭和46)年に、当時住んでいた松崎氏が東京・上大崎の自宅から門と茶室を移築した「無為庵」があり、旧華頂宮邸の建物内部と合わせて春・秋の数日間のみ一般公開されています。



往時の華やかな暮らしを彷彿とさせる洋館と幾何学式庭園



1929(昭和4)年

扇湖山荘

桜や紅葉が美しい庭園も見どころ

杉木立から望む相模湾が扇形の湖に見えることから名付けられた山荘は、製薬会社「ワカモト製薬」創業者の長尾欣彌が飛騨高山から移築・改築させた建物で、美しい日本庭園も圧巻。年に数回庭園公開されています。



母屋は木造2階、地下1階の構造。2階には接待用のサロンがあった

1936(昭和11)年

鎌倉文学館(旧前田家鎌倉別邸)

鎌倉ゆかりの文学者たちの足跡を辿る

相模湾を一望する高台にある建物は、旧加賀藩前田家第16代当主・前田利為の別邸として建てられたもの。第二次世界大戦後には、デンマーク公使や佐藤栄作元首相が別荘として使用したほか、作家・三島由紀夫の小説『豊饒の海』の第1巻『春の雪』に登場する別荘のモデルにもなりました。その後は鎌倉市が譲り受け、1985(昭和60)年に鎌倉文学館として開館。初代館長は作家の永井龍男が務めました。国登録有形文化財である格調高い建物は、西洋の木造建築ハーフティンバー様式とスパニッシュ様式を基調とし、館内には華麗なアールデコの装飾が残っています。本館前には広大な庭園と美しいバラ園があり、季節には「鎌倉」「流鏝馬」など鎌倉ゆかりの名がついた珍しいバラも見どころです。現在は鎌倉ゆかりの文学者の直筆原稿や手紙、愛用品などの文学資料の収集保存、常設展示を行うほか、多彩な特別展を開催しています。



春のバラは5月中旬～6月下旬、秋は10月中旬～11月下旬が見ごろ

鎌倉を深掘り

鎌倉文士の前夜となった「文学界」

戦争の激化と社会不安、言論の弾圧、そしてプロレタリア文学作家・小林多喜二の虐殺。1933(昭和8)年、そんな時代背景のなか、小林秀雄、林房雄、川端康成、深田久弥らの文士たちは文芸復興を目指し、政治や党派性にとられない雑誌「文学界」を創刊しました。モダニズム文学で知られる新感覚派の川端や横光利一、フランス近代文学に影響を受けた小林や島木健作らプロレタリア文学からの転向組など、多様な文学の流れを映した雑誌には、文士の自由な気風と純粋な文学精神が宿っていました。川端は「編輯後記」で、「時あたかも、文学復興の萌あり」と書いています。



「文学界」創刊号。発行は文化公論社で、後に文藝春秋社に移った



佐藤栄作

1901(明治34)年～
1975(昭和50)年

第61～63代の内閣総理大臣を務め、1964(昭和39)年から旧前田家別邸を別荘として利用。3階のバルコニー(現在非公開)では、施政方針演説前日の夜中に演説の練習をしていたとか。鎌倉文士とも親交が深く、小林秀雄、永井龍男、川端康成らが訪れて共に食事をしたこともあったそうです。



三島由紀夫

1925(大正14)年～
1970(昭和45)年

川端康成の推薦で「煙草」を発表し、本格的に文壇に登場。以来二人は深い親交を結び、三島は長谷の川端家をたびたび訪問しました。作家の集い「鉢の木会」や文芸誌「聲」のメンバーとして中村光夫ほか鎌倉文士たちと交流。小説『春の雪』執筆のために旧前田家別邸を訪れています。



1936(昭和11)年

湯浅物産館

横浜の建物を模したレトロな“看板建築”

貝細工の製造加工・卸売店として1897(明治30)年創業。アーチ窓が印象的な建物は、関東大震災後の1936(昭和11)年に建てられたもので、木造建築の正面に洋風の装飾を施した「看板建築」の代表格。創業者の湯浅新三郎は、“火災に負けない頑丈な建物を”と、大工を横浜に連れていき、現地の貿易商社を模してつくらせたそうです。



現在も、カフェや着物スタジオなどの5つの店舗が営業している

鎌倉を深掘り

鎌倉が熱狂！文士がつくった夏の風物詩「鎌倉カーニバル」

1934(昭和9)年7月、南フランス・ニースの謝肉祭(カーニバル)に感銘を受けた久米正雄と、大佛次郎らが中心となり、「第1回鎌倉カーニバル」を開催。戦中～戦後すぐの8年間を除き、1962(昭和37)年まで続いた一大イベントは、毎年その年の巨大な主神をつくり、ともに若宮大路から由比が浜海岸に向けて仮装パレードするもので、龍神、金太郎、オードリー・ヘプバーン、力道山などユニークな主神が祀られました。見物客の数は年々拡大し、鎌倉は全国的に「海の銀座」と呼ばれるようになりました。戦後1947(昭和22)年に復活した際は、ミス・カーニバルや浴衣コンテスト、ダンスをはじめ、さまざまな催しとともにパワーアップ。当時8万人の市に20万人が集まる大盛況になりました。斬新な衣装でパレードを楽しむ横山隆一ら漫画家集団、ミス・カーニバルコンテストの審査をする川端康成。何よりも文士自身が楽しむ様子が記録や作品に残るイベントは、鎌倉のまちを明るくし、人々を笑顔にしたのです。



若宮大路のビッグパレード。全国から見物客が押し寄せた

1938(昭和13)年

ぼんぼり(雪洞)祭

幻想的な雰囲気にもまれる鎌倉の風物詩

毎年8月の立秋の前日から9日まで、鶴岡八幡宮で開催される夏祭り。立秋の前日には「夏越祭」、立秋当日には「立秋祭」、源実朝の誕生日の9日には「実朝祭」が行われます。夕暮れになると、参道や流鏝馬馬場の両側には、鎌倉にゆかりのある文化人・著名人が描いた約400点のぼんぼりが点灯し、境内は幻想的な雰囲気に包まれます。もともとは1938(昭和13)年に「鎌倉ペンクラブ」のメンバーが中心となり、海水浴客に鎌倉の文化に親しんでもらうと始めたのがきっかけでした。作家の永井龍男も祭りの様子を作品に描いています。



太鼓橋から本殿まで光の道が広がり、夜まで多くの人でにぎわう

鎌倉を深掘り

“小津調”の記念碑的名作『晩春』

1936(昭和11)年には松竹撮影所が蒲田から大船に移り、映画産業が盛んになった鎌倉。没年まで山ノ内に住んだ小津安二郎監督は、1949(昭和24)年に『晩春』、1951(昭和26)年に『麦秋』など、鎌倉を舞台とした作品を残しています。なかでも鎌倉に暮らす父と娘の親子愛を描いた『晩春』では、北鎌倉駅や鶴岡八幡宮が登場。独自の“小津調”と呼ばれる映像表現を確立した映画として、国内外から高い評価を得ています。

小津安二郎 1903(明治36)年～1963(昭和38)年
東京出身。1923(大正12)年に松竹キネマ蒲田撮影所に入社し、後に鎌倉へ。里見弴や大佛次郎ら鎌倉文士と親しく交友した。



1962(昭和37)年

よしやのぶこきねんかん
吉屋信子記念館

鎌倉を代表する女性作家が暮らした家

鎌倉は優れた女性作家も活躍してきましたが、その代表といえるのが、少女小説から家庭小説、『徳川の夫人たち』などの歴史小説まで幅広く活躍した吉屋信子、1896(明治29)年～1973(昭和48)年。東京の喧騒を逃れ、よりよい執筆環境を求め、吉屋が66歳のときにこの地に居を構えました。閑静な住宅街にある平屋建ての母屋は、近代数寄屋建築の第一人者である吉田五十八が設計したもので、吉屋は「奈良の尼寺のように」と依頼したと伝えられています。現在は鎌倉市に寄贈され、市民の学習施設として親しまれています。また毎年春と秋には一般公開が行われ、当時のままで保存されている書斎や寝室、直筆原稿等の展示を見ることができます。



断髪、洋装のモダンガールだった吉屋は「少女画報」に連載した「花物語」で、当時の女学生の心を魅了した。少女小説から歴史小説まで常に女性の視点で作品を描いた



1969(昭和44)年

らいてい
榎亭

深い緑と庭園に囲まれた鎌倉山のシンボル

昭和初期に高級住宅地として鎌倉山の分譲を行った菅原通済すがはらつうせいの父であり、鉄道事業家として知られる菅原恒寛つねみの別荘だった建物。本館の和洋折衷の重厚な日本家屋は横浜の養蚕農家から、玄関は青蓮寺から移転改築し、山門は高松寺から移築したもの。現在は蕎麦・会席料理店として知られています。



ステンドグラスや古美術などを配した和洋折衷の空間が今も現存する

鎌倉を深掘り

日本初
ナショナル・トラスト運動
発祥の地・鎌倉

高度経済成長を迎えた1964(昭和39)年、鶴岡八幡宮裏の御谷みやに宅地造成計画が持ち上がったことに反対し、大佛次郎おほらじろうらの文化人や市民らが署名・募金活動を行いました。この「御谷騒動」は、自治体が土地を買い上げて緑を守る「ナショナル・トラスト運動」の日本における先駆けとなり、これがきっかけで、1966(昭和41)年には京都・奈良とともに「古都保存法」が制定。鎌倉の緑を愛する市民の思いと活動は、現代も継続しています。



当時の御谷の森。
鶴岡八幡宮の裏山にあり、重要な史跡が残る

鎌倉を深掘り

別荘族も愛用した
伝統的工芸品「鎌倉彫」

「鎌倉彫」は、13世紀に宋から伝わった法具などの美術工芸品が祖といわれ、鎌倉時代から仏像や仏具などを製作していた仏師たちが、明治時代に別荘族のニーズに合わせて家具や調度品の製作を始め、現在の鎌倉彫へと発展しました。その伝統を今に伝える老舗が、由比ガ浜通りに彫師・佐藤宗岳さとうむねたけの店舗兼住宅として建てられた1936(昭和11)年施工の「寸松堂」と、長谷で伊志良不説いしらのふせつが創業した1940(昭和15)年ごろ施工の「白日堂」ひくじつどう。ともに寺院と城郭が融合したような独自の建築も見どころです。由比ガ浜にある「伝統鎌倉彫事業協同組合・鎌倉彫工芸館」で鎌倉彫のことを詳しく知ることができます。



カツラなどから形成した木地に繊細な文様を彫り、漆を塗って仕上げる



伝統鎌倉彫事業協同組合・鎌倉彫工芸館



鎌倉モザイクマップ

時代を感じる 鎌倉散歩コース

1 おすすめコース 北条氏ゆかりの北鎌倉で禅の心に触れ、鶴岡八幡宮で源頼朝のまちづくりを見る。

東慶寺、浄智寺など北鎌倉には花の寺が多く、四季の移り変わりを感じることができます。北鎌倉駅周辺の「山ノ内」と呼ばれる、山で隔てられた一帯には北条氏が多くのお像を祀る堂を建て、それぞれがやがて臨済宗の寺院へと発展しました。真言宗、天台宗に比べて臨済宗の禅はシンプルで深く、武家の精神とマッチしていたのかもしれませんが。中世にできた亀ヶ谷坂を歩き、浄光明寺を経て、鎌倉幕府の中心地である鶴岡八幡宮へ。



谷戸の奥へと続く鎌倉らしい趣

北鎌倉駅東口
徒歩2分
円覚寺
徒歩5分
東慶寺



江戸時代は「腰込み寺」として広く知られていました

徒歩5分
浄智寺
徒歩10分
建長寺



禅宗大寺院 坐禅会もあります

亀ヶ谷坂
浄光明寺
徒歩20分
鶴岡八幡宮
徒歩15分
鎌倉駅



七福神のひとつ、布袋像に会える



扇が谷にある静かな古寺



舞殿(手前)と石段上の本宮

2 おすすめコース 鎌倉文士も愛した、長谷と鎌倉大仏へ。

松尾芭蕉句碑がある六地藏、宮沢賢治の詩碑がある光則寺、高浜虚子や大野万木などの句碑がある長谷寺、与謝野晶子の歌碑がある鎌倉大仏(高徳院)。長谷界隈には、文士たちの碑や旧住居などが点在しています。鎌倉文士やゆかりの文学を紹介する鎌倉文学館を訪れることで、鎌倉文士が愛した長谷界隈の風景が一層生き生きと見えてくるでしょう。由比ガ浜大通りには、立ち寄りやすいお店やレストランが並んでいます。



伝統を今に伝える鎌倉形の老舗

鎌倉駅西口
六地藏
徒歩20分
寸松堂



三島由紀夫も訪れた鎌倉文学館

高浜虚子庵跡
徒歩10分
吉屋信子記念館
(第一分館は期間限定)
徒歩5分
鎌倉文学館



モダンガールだった吉屋信子
鎌倉を代表する女性作家が暮らした家

甘縄神明宮
徒歩20分
鎌倉大仏
光則寺
徒歩20分
長谷寺
徒歩5分
長谷駅



川端康成が、小説「山の音」に
長谷の情景を描いています



四季折々の鎌倉大仏
与謝野晶子の
歌碑があります

文士の思いを胸に到着



横浜町商店街から
由比ガ浜大通りを右へ

P20~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

P19~

日本遺産構成文化財一覧

鎌倉の日本遺産ストーリーに位置づけられた有形・無形文化遺産を構成文化財と呼んでいます。

あ 観音寺通/あさいなまきりどおし [P15]
鎌倉市十二所 ☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

安国院寺/あんこくゑんじ [P17]
鎌倉市大町4-4-18 ☎ 0467-22-4825
9:00~16:30 月曜休(祝日を除く)

石川邸(旧長見陣跡)/いしかわてい(きょうきとみとんてい) [P32]
鎌倉市西側門1-19-3 ☎ 0467-23-7477
※現在は西側門テラーネとして見学可 月曜11:00~16:00

真勝寺/ましかつじ [P28]
鎌倉市扇が谷1-16-3 ☎ 0467-22-3534
9:00~16:00 木曜休

花綱天神社/はなづなてんじんしゃ [P9]
鎌倉市二階堂74 ☎ 0467-25-1772 8:30~16:30

円覚寺/えんがくじ [P20]
鎌倉市山ノ内409 ☎ 0467-22-0478
8:00~16:30(12~2月は~16:00)

大町釈迦堂白通跡/おおまちしゃかどうくわいせき [P22]
鎌倉市大町 ※通行できません
☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

か 寛国寺/かかんじ [P22]
鎌倉市二階堂421 ☎ 0467-22-1195
10:00~15:00(1時間ごとに案内、平日12:00を除く)、
4月27日、8月、12月20日~1月7日、両天、露天日休

鎌倉宮/かまくらぐう [P29]
鎌倉市二階堂154 ☎ 0467-22-0318
9:30~16:30(事前開館日は14時まで)

鎌倉大仏(鎌倉阿弥陀如来坐像)/かまくらだいにぶつ(どうぞうあみだにょらびざう) [P19]
鎌倉市長谷4-2-28 ☎ 0467-22-0703
8:00~17:30(10~3月は~17:00、入場は開門15分前まで)

鎌倉文学館(旧前田家蔵書別荘)/かまくらぶんがくかん(きょうまゐだけかまくらべつてい) [P36]
鎌倉市長谷1-5-3 ☎ 0467-23-3911
9:00~17:00(10~2月は~16:30)
月曜休(祝日を除く、12月29日~1月3日、展示替え期間、特別整理期間、5・6・10・11月は不定)

鎌倉彫/かまくらぼり [P39]
鎌倉市山比が浜3-4-7
☎ 0467-23-0154(伝統鎌倉彫事業協賛組合・鎌倉彫工芸館)
火~金曜9:00~17:00、土曜9:00~15:00、日曜日・祝日11:00~15:00
月曜休(祝日の場合は火曜休)

鎌倉名所記/かまくらめいしよき [P26]
旧鎌倉官邸/きょうからちやうのみやてい [P34]
鎌倉市浄明寺2-6-37
☎ 0467-23-3000(鎌倉市まらぶくり景観部都市景観課)
高国見学の時間10:00~16:00(10~3月は~15:00)
高国見学は年末年始と月・火(祝日の場合次の平日)休
※建物内部公開の期間は春、秋2回、計4日間

旧川喜多邸別荘(旧頼比郎)/きょうかひきたていべつてい(きょうわつじてい) [P34]
鎌倉市宮ノ下2-2-12
☎ 0467-23-2500(鎌倉市川喜多邸別荘館)
※公開日・イベント時に見学可

鎌倉市浄明寺2-6-37
☎ 0467-23-3000(鎌倉市まらぶくり景観部都市景観課)
高国見学の時間10:00~16:00(10~3月は~15:00)
高国見学は年末年始と月・火(祝日の場合次の平日)休
※建物内部公開の期間は春、秋2回、計4日間

仮観覧/かいはんざん [P16]
鎌倉市扇が谷
☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

鎌倉寺/かまくらじ [P19]
鎌倉市山ノ内8 ☎ 0467-22-0981
8:30~16:30

光勝寺/こうみょうじ [P15]
鎌倉市材木渡6-17-19 ☎ 0467-22-0603
6:00~17:00(10月15日~3月31日は7:00~16:00)

古銭部/こがてい [P31]
鎌倉市扇が谷1-7-23 ☎ 0467-22-2011
11:00~15:00、17:00~21:00
火曜休 ※現在はレストラン、カフェとして営業中

鎌倉寺/こくらじ [P18]
鎌倉市扇が谷3-6-7 ☎ 0467-22-3402
9:00~16:30

小助神社/こすけのすけじんしゃ [P11]
鎌倉市扇が谷2-9-12 ☎ 0467-31-4566

御堂神社/ごどうじんしゃ [P6]
鎌倉市宮ノ下4-9 ☎ 0467-22-3251
収蔵庫9:00~17:00

さ 寿福寺/じゆふくじ [P13]
鎌倉市扇が谷1-17-7 ☎ 0467-22-6607
※拝観は中門まで

浄光院寺/じやうこうみょうじ [P17]
鎌倉市扇が谷2-12-1 ☎ 0467-22-1359
9:00~16:00
(阿弥陀堂と収蔵庫は木・土・日曜日・祝日の10:00~12:00、
13:00~16:00のみ公開)
無休(ただし、阿弥陀堂と収蔵庫は雨天、8月、年末年始休)

成親院/じやうしんいん [P14]
鎌倉市扇が谷1-1-5 ☎ 0467-22-3401
8:00~17:00(11~2月は~16:30)

浄智寺/じやうち [P21]
鎌倉市山ノ内1402 ☎ 0467-22-3943
9:00~16:30

浄妙寺/じやうみょうじ [P11]
鎌倉市浄明寺3-8-31 ☎ 0467-22-2818
9:00~16:30

瑞雲寺/ずいせんじ [P22]
鎌倉市二階堂710 ☎ 0467-22-1191
9:00~17:00(受付は~16:30)

杉本寺/すぎもとでら [P5]
鎌倉市二階堂903 ☎ 0467-22-3463
8:00~16:30(受付は~16:15)

寸松堂/すんしょうどう [P39]
鎌倉市笠間町5-1 ☎ 0467-22-0706
10:00~17:00 不定休

鎌倉弁財天宇賀保神社/かまくらべんざいてんうがひじんしゃ [P11]
鎌倉市佐助2-25-16 ☎ 0467-25-3081
8:00~16:30

扇洲山荘/せんこさんそう [P35]
鎌倉市鎌倉山1-21-1
☎ 0467-23-3000
(鎌倉市まらぶくり景観部都市景観課・都市整備部公園課)
※年2回程度公開

た 大仏通/だいにぶつきりどおし [P16]
鎌倉市長谷 ☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

頼朝八幡宮/つるがわかはちまんぐう [P10]
鎌倉市宮ノ下2-1-31 ☎ 0467-22-0315
6:00~20:30(宝物庫は8:30~16:00、9月15日休)

東慶寺/とうけいじ [P21]
鎌倉市山ノ内1367 ☎ 0467-33-5100
8:30~16:30(10~3月は~16:00)、
水月観音菩薩像の拝観は事前予約制(詳しくはHPで要確認)、
松岡宝蔵は9:30~15:30(松岡宝蔵は月曜休、祝日は閉館)

な 名勝通/なごきりどおし [P16]
鎌倉市大町
☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

は 自覚堂/じかくどう [P39]
鎌倉市長谷3-12-19 ☎ 0467-22-3207
10:00~16:30 不定休

長谷子ども会館(旧鎌倉戸部)/はせこどもかいかん(きょうもるとてい) [P31]
鎌倉市長谷1-11-1 ☎ 0467-23-3000(鎌倉市青少年課)
※入館できません

長谷寺/はせでら [P6]
鎌倉市長谷3-11-2 ☎ 0467-22-6309
8:00~17:00(10~2月は~16:30)、
観音ミュージアムは9:00~16:00 不定休

宝成寺/ほうかいじ [P23]
鎌倉市小町3-5-22 ☎ 0467-22-5512
8:00~16:30(入山は15分前)

報国寺/ほうこくじ [P23]
鎌倉市浄明寺2-7-4 ☎ 0467-22-0762
9:00~16:00 12月29日~1月3日休

法華堂跡(源頼朝墓・北条時義墓)/ほっけどうあと(みなもとのおよしのむねかほうじょうよしときのおか) [P12]
鎌倉市西側門2
☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

本覚寺/ほんがくじ [P26]
鎌倉市小町1-12-12 ☎ 0467-22-0490 9:00~16:00

ほんぼり(雲洞)跡/ほんぼりまつり [P38]
鎌倉市宮ノ下2-1-31(頼朝八幡宮)
☎ 0467-22-0315 8月の立秋の前日から9日まで

ま 三河屋本店/みかわやほんてん [P33]
鎌倉市宮ノ下1-9-23
☎ 0467-22-0024 9:00~19:00 火曜休

明王院/みょうおういん [P14]
鎌倉市十二所32 ☎ 0467-25-0416 9:00~16:00

妙本寺/みょうほんじ [P18]
鎌倉市大町1-15-1 ☎ 0467-22-0777 8:00~16:30

や 明月院/めいげついん [P26]
鎌倉市山ノ内189 ☎ 0467-24-3437
9:00~16:00(6月は8:30~17:00)

流経馬/やぶさめ [P10]
鎌倉市宮ノ下2-1-31(頼朝八幡宮)
☎ 0467-22-0315(頼朝八幡宮、9月・10月)
☎ 0467-23-3050(鎌倉市観光協会、4月)
4月第3日曜、9月16日、10月第1日曜

源清物産館/ゆきよぶつさんかん [P37]
鎌倉市宮ノ下1-9-27
☎ 0467-22-0472 10:00~18:00

永福寺跡/ようふくじあと [P13]
鎌倉市二階堂178
☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

吉原信子記念館/よしやのぶこきんかん [P39]
鎌倉市長谷1-3-6
☎ 0467-25-2030(鎌倉市生涯学習センター) 10:00~16:00
※5・6・10・11月の1~3日、4・5・6・10・11月の土曜、5・6月の日曜、
ゴールデンウィークに公開。公開日以外は学習施設として利用可。

ら 榎亭/えんてい [P40]
鎌倉市鎌倉山美砂 ☎ 0467-32-5656
商店営業及び寄席場は11:00~日没、
会席料理は11:00~20:30(17:00以降は要予約)
休/1月1日~3日、7月最終の毎月~木曜休
※現在蕎麦・会席料理店として営業中

わ 若宮大講/わかみやおおい [P10]

「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～

監修・協力	写真提供	編集・発行
宗教学長長谷寺文化財室 三浦 浩樹	頼朝八幡宮	日本遺産いざ鎌倉協議会 (事務局：鎌倉市歴史まらぶくり推進課)
鎌倉文学館 館長 宮内 幸一郎	鎌倉寺	企画・デザイン・製本 株式会社ドッカンパニー
鎌倉市中央図書館 近代史料資料担当 平田 寛美	東成寺	
以上のほか、構成文化財の所有者など 多くの方にご協力いただきました。	明王院	
	鎌倉市観光協会	
	鎌倉文学館	
	鎌倉市中央図書館	
鎌倉国史館		